

世界の広さを知ったから

学校法人向上学園自修館中等教育学校 3年 徳原 さらら

私は中学二年生の頃、縁あってカンボジアについて詳しくなる機会があった。その時に、生まれた境遇によって生き方を選べない子供が多くいることを教えてもらい、世界の広さを思い知らされた。時が経ち三年生になった頃、社会科の先生に、「世界で何が起こっていたのか、知らないまま大人になってはいけない」と教えていただいた。私はこのとき、ずっと分からなかった歴史を学ぶ意味を知り、同時に学ばなければならないと思うようになった。どこかの国について詳しくなろう、過去に何があったのか知り、歴史から今へ繋げなければならない。そう思い選んだ国が、かつて少し詳しくなったカンボジアだった。一九七〇年代に起こった、クメール・ルージュによる大量虐殺。カンボジアについて調べると、必ず出てくる重大な出来事だ。都市部の発展は目覚ましいカンボジアだが、内戦が続いたことが影響して、農村部では貧困に苦しみ、学校に行けず、まともな医療も受けられていない人もたくさんいる。

日本もカンボジアも、九年間の義務教育が憲法で課されており、公立学校は授業料は無償だ。しかし、日本の中学就学率はほぼ一〇〇%なのに対し、カンボジアは約十七%と極端に低い。さらに、日本では無償である教科書もカンボジアではそうではない。ぼろぼろになってしまったものを使い回すのだ。書きこみや落書きも、もちろんできない。なぜこんなにも日本は恵まれているのだろうか。それは、税金が少なからず影響しているだろう。学校だけではない。病気になっても高度な医療を受けられ、その後も莫大なお金がかからないのも税（社会保険）のおかげであり、日本の治安がいいのも税金のおかげだ。

最近、「税金の無駄」「税金泥棒」という言葉を耳にするようになった。政治家に向けた発言や、警察官などの公務員の人に向けて発された、心無い言葉の数々だ。本当に無駄になった税金も中にはあると思うが、私はこれらの言葉が嫌いだ。知ったふりをして、間違った正義を振りかざしているようにしか見えないからだ。私はそのような人間になりたくない。

私の将来の夢は医師だ。医療にも、税金が関わってくることもある。そして何より、色々な人と関わることができるため、また違う世界に出会えるだろう。違う世界を知れば、常識も変わる。今の常識、すなわち今の日常があるのは、日本の税金制度のおかげであると言える。このことを当たり前だと思っはいけない。今はまだ子供で、消費税くらいしか払ったおぼえはないが、将来納税の義務をしっかりと果たし、私は立派な大人になる。そしていつか必ず、カンボジアを訪れたい。世界の広さを知ったから、今私ができる決意表明だ。